

プール整備にかかる支援市の選定について

1. 意見聴取結果

・資料3-1のとおり

2. 県としての評価

- ①飛込プールについては、現有の県立スイミングセンターに設置しており、現に競技者が存在すること、また、今後より一層競技振興を図っていくという観点から、県としては、飛込プールを整備することが必要と考えており、整備意向を示された草津市を優位と評価する。
- ②3市の整備予定箇所は、いずれもアクセスに優れているが、様々な県民等に、より多く利用いただく観点から、JR沿線（とりわけJR琵琶湖線沿線）であること、また、高齢者や障害者の利用の観点から、公共交通機関からのアクセス路の高低差が少ないことから、草津市を最も優位と評価する。
- ③3市の水泳競技の普及状況については、いずれも中学校や高等学校において水泳部が設置され、多くの生徒が所属し、水泳競技の普及や選手の育成がされていること、また、民間スポーツクラブが設置され、一般の方も多く利用されていることから、3市を同等と評価する。
- ④施設整備および運営に要する経費については、3市いずれも民間活力を利用したコスト削減を検討されているが、中でも、運営だけでなく施設整備からのコスト縮減に向けた取組として、PFI事業の活用を検討されていることから、大津市・草津市を優位と評価する。
- ⑤施設運営については、3市とも利用者確保に向けた提案をされているが、中でも「合宿誘致（大津市）」や「大学との連携（草津市）」といった具体的な提示をされていることから、大津市・草津市を優位と評価する。

項目	基礎点	大津市	草津市	東近江市
①飛込プールの整備意向	5	無(0点)	有(15点)	無(0点)
②整備予定箇所	5	2位(10点)	1位(15点)	3位(5点)
③水泳競技の普及状況	3	1位(9点)	1位(9点)	1位(9点)
④施設整備および運営に要する経費	4	1位(12点)	1位(12点)	3位(4点)
⑤施設運営	3	1位(9点)	1位(9点)	3位(3点)
合計	—	40点	60点	21点

3. 支援市の選定

・上記2の評価を基に、草津市を支援市として選定する。

○3市からの回答

※各市からの原文は、ゴシック体で記載しています。県として補足して説明することがある場合は、明朝体で記載しています。

(1) 飛込プールの整備の意向

項目	大津市	草津市	東近江市
整備意向	無	有	無

○意見聴取

<意見聴取>
なし

(2) 具体的な整備予定箇所

項目	大津市	草津市	東近江市
整備予定箇所	皇子が丘公園 ・整備予定地は皇子が丘公園のグラウンド	草津市西大路町 地先 (野村運動公園の隣接地) ・整備予定地は野村運動公園に隣接するグラウンド	布引運動公園内 (整備予定地は既設の布引プール、多目的広場及びゲートボール場)
交通アクセスの状況	・JR 湖西線大津京駅・京阪皇子山駅から徒歩5分 ・JR 琵琶湖線大津駅からバスで10分 ・名神京都東、大津ICともに車で10分	・JR「草津」下車徒歩10分 ・近江鉄道バス「西大路」下車徒歩5分 ・草津市まめバス「野村運動公園口」下車スグ	・名神八日市インターチェンジ、名神蒲生スマートインターチェンジからいずれも車で約10分。 ・近江鉄道大学前駅から徒歩8分
周辺人口の状況 ※概ね半径5km以内	坂本学区から膳所学区まで 11学区 計 123,031人	20万人程度 ※草津市域 約13万人 栗東市域 約4.5万人 守山市域 約2.5万人	約10万人
競合施設の状況 ※概ね半径5km以内	なし ※域内には、屋内50mプールがないため「なし」と記載されたもの ※半径5km以内には、以下の施設が存在 ・公共施設 におの浜とれあいスポーツセンター (屋内25m) なぎさ公園プール(遊泳) ・民間施設 ニスポ・スイムクラブ西大津 大津イトマンズスポーツクラブ (上記2施設は、いずれも屋内25m)	・公共施設 矢橋津帆島公園プール(遊泳) 滋賀県立障害者福祉センター (屋内25m) 草津市立ロクハ公園プール(遊泳) ・民間施設(スポーツジム) コナミスポーツクラブ草津 草津イトマンフィットネスクラブ グンゼスポーツ南草津 ビバスポーツアカデミー南草津 (上記4施設は、いずれも屋内25m) ※上記以外にも他市において、以下の施設が存在 ・民間施設 ビバスポーツアカデミー瀬田 ラックスイミングクラブ栗東キッズ (上記2施設は、いずれも屋内25m)	・市立プール3施設(布引プール、湖東プール、能登川プール(いずれも屋内25m)。ただし、能登川プールは民間へ無償貸与)と民間プール(八日市イトマンズイミングスクール(屋内25m))が存在する。 ※湖東プールは、整備予定地から約6.8km 能登川プールは、整備予定地から約10.7km それぞれ離れている。

聴取内容	<p>○滋賀県体育協会（1位：大津市、草津市、3位：東近江市） 交通アクセス 特に多くの利用が見込まれる中高生や大学生、さらに県民の利便性の観点から、公共交通機関からのアクセスの良さが求められる。また、幹線道路や高速道路 ICに近い等の自動車による広域アクセスの良さも重要。 その他 周辺人口や競合施設については、どのように比較検討すべきか判断できない。</p> <p>○滋賀県障害者スポーツ協会（1位：草津市、2位：東近江市、3位：大津市） 大津市（皇子が丘公園）・・・整備予定箇所の傾斜が大きい。車いす常用の者や下肢障害の者は、施設までの移動が難しいと考える。 草津市（西大路）・・・駅からの整備予定箇所までほぼ平坦につき、徒歩での移動も可能。また、施設前にバス停があるため、低床バスやリフト付きバスが走れば、なお、良い。 東近江市（布引運動公園）・・・駅から整備予定地に傾斜あり。公共交通機関での乗り換え回数が多いことも障害者にとっては行きずらくなる原因となりうる。</p> <p>となると、駐車場の整備が重要になるが、3市ともに記載がなく評価できない。</p> <p>○滋賀県水泳連盟（1位：草津市、2位：大津市、3位：東近江市） 大津市・草津市と非常に素晴らしい立地ですが、県内各地からの公共交通機関のアクセスを見れば草津市の立地が幾分よいように思われる。</p> <p>○滋賀県高等学校体育連盟（1位：大津市、草津市、東近江市） 現在の利用実績から考えると、大津市の整備予定箇所は、利用者は慣れていると思われるが、本連盟は全県的な視点で考える立場であり、優劣を判断することはできない。</p> <p>○滋賀県中学校体育連盟（1位：草津市、2位：大津市、東近江市） 県内の各地から中学校の生徒が団体券で移動して利用することを考えると、JR沿線で、駅から徒歩圏内に立地することが必要である。県内各中学校からの移動距離を考えると、県の中心に近い草津市がよい。 保護者の中学生大会観戦も多いことから施設・周辺施設駐車場の確保が必要である。 中学生の近畿や全国規模の大会招致を考えると、草津市は近隣府県からJRを使っでのアクセスが容易であり、新快速電車の停車駅でもあることから、大津市、東近江市と比べて好立地である。</p> <p>○同志社大学スポーツ健康科学部 横山 勝彦 教授（1位：草津市、2位：大津市、3位：東近江市） 整備予定箇所、交通アクセスの状況、競合施設（大津市は、回答に記載がないため補足資料により事実確認）については、三者間に遜色は見られない。 周辺人口の状況については、草津市の人口規模が大きく、次が大津市である。 したがって、多数の県民・市民利用を可能とする立地条件の観点で判断し、草津市が優位に立つと評価する。</p> <p>○法政大学スポーツ健康学部 吉田 政幸 准教授（1位：草津市、2位：大津市、3位：東近江市） 今回整備するプールは、滋賀県の基本的な考え方で示されているように、「県民・市町の住民が日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境を確保する」という観点から評価することが重要と思われます。これに関して、JRの最寄り駅から徒歩圏内に施設整備を予定する大津市と草津市は、街中にプールを建設できることから、多くの県民による日常的な利用が可能となります。東近江市の予定地は高速道路のインターチェンジから近いというメリットがありますが、これは他府県からの参加者を含めた大会開催時のメリットであり、地元住民の日常利用を必ずしも促進するものではありません。 また、市営の競泳用プールの整備状況についても、3市で現状が異なるようです。既に市営の競泳用プールがある大津市と東近江市に対して、草津市は市営の競泳用プールを新設することになります。草津市は、これまで民間プール施設が中心だったことから、公共施設を整備することで、これまで水泳にあまり関わったことのない人々も含め、より多くの住民が水泳を楽しむ機会を得る可能性があります。</p>
------	---

1位とした者数 ※同順位含む	大津市	草津市	東近江市
	2者	7者	1者

(3) 水泳競技(競泳・飛込・水球・シンクロ)の普及状況(競技人口、水泳部の設置状況など)

大津市	草津市	東近江市
<p>・一般競技人口は、市内公立・民間スイミングセンター会員数8プール 10,700名</p> <p>・市内中学校水泳部は、18校中7校 部員数 150名(競泳のみ)</p> <p>・市内高等学校水泳部は、県立 膳所、東大津、大津、石山、瀬田工業、大津商業 私立 比叡山 計7校 部員数 計179名</p> <p>・比叡山高校は「2024 滋賀国体強化拠点校」(平成30年度競泳男女)</p> <p>・市内大学水泳部 : 108名</p> <p>びわこ成蹊 スポーツ大学 : 39名(競泳) 19名(水球)</p> <p>滋賀大学 : 22名(競泳)</p> <p>滋賀医科大学 : 28名(競泳)</p> <p>(参考) 龍谷大学 : 46名(京都を拠点)</p>	<p>(1) 草津市水泳連盟 加盟数: 56名 突 績: 県民体育大会 6年連続1位</p> <p>(2) 立命館大学水泳部 部員数: 競泳(36名) 飛込(1名) 水球(11名) シンクロ(0名) 突 績: 関西学生リーグ12連覇(水球) 第92回日本学生選手権 3m飛板飛込1位(H28)</p> <p>(3) 市内高等学校 部員数: 草津東高(「2024 滋賀国体強化拠点校」) 平成30年度競泳男女) 42名 玉川高 30名</p> <p>(4) 市内中学校 部員数: 老上中 1名 玉川中 4名 松原中 2名 突 績: 第54回 滋賀県中学校春季総合体育大会(H29)</p> <p>背泳ぎ100m 女子 1位(老上中 中2)</p> <p>自由形50m 男子 1位(玉川中 中3)</p> <p>自由形100m 男子 1位(玉川中 中3)</p> <p>個人メドレー400m 男子 1位(草津中 中3)</p>	<p>・地元東近江水泳連盟加盟の競泳者は、18歳から79歳まで多世代のスイマーが在籍しており、本市に所在する二つの民間経営プール(八日市イトマンスイミングスクール、能登川プール)並びに中学校2校(聖徳中、玉園中)及び高校1校(八日市高校)の水泳部も地元水泳連盟に加盟しており、地域での水泳競技(競泳)の普及が進んでいる。</p> <p>・これは、本市にある二つの市立プール(布引プール、湖東プール)と二つの民間経営プールで、幼少期からの水泳教室が盛んに営まれ、水泳機会の提供が盛んであることが背景にある。</p> <p>・また、地元水泳連盟主催の合宿では、中学生が合同で合宿を行っており選手強化にも努めている。本市に所在するスイミングクラブに所属する中学生の中には、全国大会に出場し活躍する選手も出てきている。</p> <p>・市内中学校 部員数: 37名</p> <p>・市内高等学校 部員数: 24名</p> <p>・市内大学水泳部 : なし</p>

<意見聴取>

<p>聴取内容</p>	<p>○滋賀県体育協会(※順位付けず) どのように比較検討すべきか、判断できない。</p> <p>○滋賀県障害者スポーツ協会(1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 上記の記載には障害者の水泳競技人口の記載なしにつき、滋賀県障害者スポーツ大会に出場する選手数で考えると、大津市・草津市の参加者が多い。</p> <p>○滋賀県水泳連盟(1位:大津市、草津市、東近江市) 上記の表では、切り口が違うため評価をする事が難しい所ではありますが、当連盟の知る所では、各市とも素晴らしい独自の取り組みをされており甲乙つけがたいところです。</p> <p>○滋賀県高等学校体育連盟(1位:大津市、草津市、東近江市) 各自治体の規模によって差があることは自然であり、本連盟としては、そのことが評価の優劣につながらないとする。</p> <p>○滋賀県中学校体育連盟(1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 中体連で把握している水泳部数・部員数(競泳)は、以下のとおりで、各市の建設希望地を中心とした地域の中学校の水泳部の状況を見ると以下のような状況で、大津、草津は同等である。</p> <p>大津市 7校 150名 草津市 2校 7名 栗東市 3校 89名 守山市 2校 74名 東近江市 3校 48名 近江八幡市 2校 12名 日野町 1校 13名 竜王町 1校 2名 愛荘町 1校 1名</p> <p>○同志社大学スポーツ健康科学部 横山 勝彦 教授(1位:大津市、2位:草津市、3位:東近江市) 競技人口、水泳部の設置などを中心とする水泳競技の普及状況については、大津市と特に東近江市の回答に具体性が乏しいため、国体強化拠点校の有無や(種目別)部員数といった補足資料から確認し、競技者数が多い大津市が優位にあると評価する。</p> <p>○法政大学スポーツ健康科学部 吉田 政幸 准教授(1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 国体施設を大会開催後も地域に根付かせるためには、水泳に対する興味や熱気を一般市民にまで広げなければいけません。そのためには、(1)国体施設が競技関係者の活躍の場(水泳の拠点会場)になるだけでなく、(2)選手の活躍が刺激となって一般の子どもたちや大人たちの間でも水泳の実施率が高まる事が大切です。3市はいずれも水泳の拠点会場となる可能性を持っていますが、一般市民への広がりを考えた時、水泳競技に取り組む中学生、高校生、大学生の通う学校が多くあり、しかもそうした学校が密集する街中を建設予定地とする大津市と草津市は、市民レベルでより大きな効果を期待できます。</p>
-------------	---

1位とした者数 ※同順位含む	大津市	草津市	東近江市
	6者	5者	2者

※滋賀県体育協会は順位を付けず

(4) 施設整備および運営に要する経費についての考え方
(国庫補助金やその他助成金等収入などの財源獲得に向けた取組)

大津市	草津市	東近江市
<ul style="list-style-type: none"> ・社会資本整備総合交付金・都市公園施設整備費国庫補助金1/2の確保 ・県の施設整備支援2/3の充当 ・公共事業等債の発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園事業として社会資本整備総合交付金の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備については、学校施設環境改善交付金(スポーツ施設整備事業)を活用する。 ・運営については、指定管理者制度により、民間の経営ノウハウを取り入れ、各水泳教室だけでなく屋内施設を活用した多彩なフィットネス教室等の事業収入と広域的な水泳競技の大会開催による施設使用料を見込み、施設運営に充てる。
<p>※いずれも、学校施設環境改善交付金の活用が可能である。また、都市公園事業として整備する場合、社会資本整備総合交付金、公共事業等債の活用が可能である。</p>		

(コスト削減に向けた取組)

大津市	草津市	東近江市
<ul style="list-style-type: none"> ・PFI手法の活用による設計から整備・運営のスケールメリット ※インシヤル費用の削減 ※PFI事業者の自主運営(隣接する皇子山公園体育館との一体運営等)による収入確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI手法等の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間のマネジメント力により収入増を促し、利用料金制による指定管理料の削減を図る。

<意見聴取>

聴取内容	意見
<p>○滋賀県体育協会 (※順位付けず) 国庫補助等の活用により財源を確保することは重要であり、いずれの市もそれらを検討されているところ。なお、PFI手法等の検討は必要であるが、コスト削減のみを目的化し、県民へのサービス低下を来すことのないようにお願いしたい。また、プール棟は早期建設が望ましいと考えるが、詳細な実施要件の把握に時間を要するPFI事業で整備が間に合うのか懸念される。</p> <p>○滋賀県障害者スポーツ協会 (1位:大津市、草津市、東近江市) 3市とも同じような内容につき、評価はしない。</p> <p>○滋賀県水泳連盟 (1位:大津市、2位:草津市、東近江市) 補助金の制度に付いては、知識が無いために評価できません。運営に民間の活力を利用する事は、良いことだと思いますが、県営施設としての機能(施設利用の優先順位・使用料金等)を有することを必ず担保していただきたい。 PFI手法の導入は経費削減のメリットはあるようですが、時間がかかることもあるようなので、導入するに当たってはご配慮(当連盟としては、最低2022年9月までに竣工を希望する)をお願いいたします。 体育館との一体運用に付いては、隣接地にあれば運営のみならず、インシヤルコストの削減にもつながるものであると考えます。</p> <p>○滋賀県高等学校体育連盟 (1位:大津市、草津市、東近江市) 本連盟が専門的に評価できる内容ではなく、優劣がつけられない。</p> <p>○滋賀県中学校体育連盟 (1位:草津市、2位:大津市、東近江市) 施設整備に係る経費の考え方は3市とも差はない。 運営(ランニング)コストを考えると飛び込みプールを整備する意向の草津市は整備・運営経費がかさむことは間違いない。 しかし、中体連には部員数は少ないものの飛込競技部があるため、日常練習ができる飛び込みプールの整備は大変ありがたく、将来のある中学生に投資いただくという考え方では、無駄な経費とは考えられない。 利用者数から考えると人口密集地(大津市・草津市)であるほうが、安定して利用があり、費用対効果が上がると思われる。</p> <p>○同志社大学スポーツ健康科学部 横山 勝彦 教授 (1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 施設整備および運営に要する経費の財源獲得面については、三者とも学校施設環境改善交付金などの活用という点では遜色は見られない。コスト削減面では、東近江市は具体的取り組みが無く、PFI手法の活用を検討すると回答した大津市と草津市が同位にあると評価する。</p> <p>○法政大学スポーツ健康学部 吉田 政幸 准教授 (1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 施設整備のための経費に対する考え方は3市とも共通しており、県からの補助と国庫補助金を活用することで一致しているようです。 コスト削減に向けた取り組みについては、大津市と草津市はPFI手法を活用することで施設の建設からその後の運営までを検討しているようです。これにより、補助金以外の資金調達の可能性(民間事業者への委託)があることが読み取れます。一方で、東近江市は補助金以外の資金確保については言及していないようです。</p>	

1位とした者数 ※同順位含む	大津市	草津市	東近江市
	5者	5者	2者

※滋賀県体育協会は順位を付けず

(5) 施設運営についての考え方 (利用者確保に向けた取組)

大津市	草津市	東近江市
<ul style="list-style-type: none"> ・全国レベルの大会誘致 ・市外一般利用者(山科、京都)増加のための啓発 ・立地・交通アクセスのメリット ・ラグビーワールドカップ、東京オリパラホストタウン等事前合宿の実績を活かして、市内民間宿泊施設との連携による合宿誘致(他県連盟・企業・学校) ・事業主体の様々なスクール実施(健康・体力増進、高齢者・身体障害者向け) 	<ul style="list-style-type: none"> ・JR琵琶湖線・草津線や国道1号、名神・新名神高速道路などの幹線が交わる交通の優位性を生かして、県内はもとより広域的な運営を図る。 ・中心市街地活性化エリアに位置しており、駅やホテル、大規模商業施設等に近いという立地適正や、屋内温水50mプールを有する施設規模を活用した全国規模の大会の招致等を通じて、交流人口の拡大を図る。 ・民間ノウハウを活用しながら、水泳競技力の向上、アクアピクスや水中ウォーキング等による健康増進、心身を癒すリハビリやリラクゼーション等の多様な目的の施設を開設することで、様々な年齢層の利用を図る。 ・立命館大学と連携して大学選手権等の誘致により大学スポーツの振興を図る。 ・野村運動公園、草津川跡地公園と合わせて整備することにより、新プール施設の機能を相乗的に発揮し、利用者の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本市は京阪神と中京圏との中間に位置し、布引運動公園は、名神高速道路の二つのインターチェンジからいずれも車で10分のところに位置するため、交通アクセスの利便性が高い施設である。 ・また、当該地の近隣には名神丸の内パーキングがあることから、今後その活用も考えると、その利便性は更に向上し、市内外からの来場が多く見込まれる。 ・布引運動公園には、既設の陸上競技場をはじめ、多目的グラウンド、グラウンドゴルフ場、体育館、プール、弓道場等があり、今後、各施設の更なる充実を図り、東近江市総合運動公園化を目指したい。

<意見聴取>

聴取内容	意見
<p>○滋賀県体育協会 (1位:草津市、2位:大津市、東近江市) 言うまでも無く、生涯スポーツ、競技スポーツ双方の振興を図る運営が求められる。特に、今後は、県民の健康増進に向けた取り組みを充実していく必要があると考える。また、競技スポーツの面では、競技団体や学校体育連盟等との密接な連携により、何らかの全国レベルの大会を誘致し、それが毎年開催されるよう定着を図るなど、「このプールならではの」という特色を有し、県民が誇りをもてる施設となるような運営を望みたい。室内飛び込みプールの活用を期待したい。</p> <p>○滋賀県障害者スポーツ協会 (1位:草津市、2位:大津市、3位:東近江市) 障害者の利用を示している大津市・草津市を評価する。また、水中ウォーキングやリハビリなど障害者も可能な取り組みが挙げられており、草津市を評価する。</p> <p>○滋賀県水泳連盟 (1位:草津市、2位:大津市、3位:東近江市) 全国規模の大会の誘致は、スポーツツーリズムの考えの元、経済波及効果が大きいとあり、有意義なことだと考えます。大学との連携は、大学スポーツの今後の変革の流れの中で大きな可能性を秘めていると考えます。</p> <p>○滋賀県高等学校体育連盟 (1位:大津市、草津市、東近江市) どの施設にも良い条件が多数あり、同等であると考える。</p> <p>○滋賀県中学校体育連盟 (1位:大津市、草津市、3位:東近江市) それぞれの施設の立地の利点を生かして、全国規模の大会等の誘致を考えている点は評価できる。中体連としては、水泳競技の普及・強化の観点から、高いレベルの競技を身近で観戦したり応援したりできることは大変ありがたい。さらに、施設を利用した教室やイベントの企画で、幅広い年齢層の水泳人口が増えることも、競技の底辺を広げることにつながるから歓迎できる。</p> <p>○同志社大学スポーツ健康科学部 横山 勝彦 教授 (1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 施設運営については、東近江市は具体的な施策提示が乏しく、取り組みの実現可能性が高い大津市と草津市を同位と評価する。</p> <p>○法政大学スポーツ健康学部 吉田 政幸 准教授 (1位:大津市、草津市、3位:東近江市) 3市の利用者確保に向けた取り組みは、以下のようにまとめることができるようです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交通アクセス:大津市、草津市、東近江市 2. スポーツ教室の開催:大津市、草津市、東近江市 3. 民間ノウハウの活用:大津市、草津市、東近江市 4. 隣接する他のスポーツ施設との相乗効果:大津市、草津市、東近江市 5. 全国規模の大会誘致:大津市、草津市、東近江市 (※東近江市は「広域的な大会」と表記) 6. 市内宿泊施設との連携による合宿誘致:大津市 7. 地元大学との連携による大学スポーツの振興:草津市 <p>多くの取り組みが共通する一方で、特徴的な試みとして「大津市の合宿誘致」と「草津市の大学との連携」を読み取ることができます。どちらも、地元の民間宿泊施設と大学との連携を通じたスポーツ振興と地元への社会貢献を期待できます。</p>	

1位とした者数 ※同順位含む	大津市	草津市	東近江市
	4者	7者	1者

＜総合評価＞

※上記5項目を踏まえた総合的な評価

＜意見聴取＞

<p>聴取内容</p>	<p>○滋賀県体育協会 彦根総合運動場の飛込み用プールの廃止により、県内では飛込みの練習や競技の可能な施設が皆無となる。このため、今回のプール整備において、飛込み用を設置することが是非とも必要である。 3市の中で唯一飛込みプール整備の意向を示されるとともに、公共交通機関によるアクセスも良い草津市での整備が最も望ましいものとする。 なお、いずれの市も、プール単独の施設ではなく、運動公園等の一角を占める形での設置を考えておられ、市民・県民がそこへ行けば様々なスポーツ活動に取り組むことができるという観点から、望ましい提案をされたものとする。 こうした中で、効率的な施設整備・運営を図ることは極めて重要な観点であるが、併せて、これらの施設を、単なるハコ物としてではなく、市民・県民のスポーツ活動の拠点として、いかにスポーツ振興を図るのか、さらに、それらをにぎわいのある地域づくりや住民の健康づくりに向けた中核施設として、市・県の活性化にどのように結びつけるのか、といった基本的な考え方や構想について、今後しっかりと示していただくことが重要であるとする。</p> <p>○滋賀県障害者スポーツ協会 障害者の利用促進という観点から考えると、施設までのアクセスの利便性から草津市の評価が高くなる。 また、草津市は、野洲養護学校や草津養護学校など生徒数が多い支援学校に近いこと、三雲養護学校や甲南高等養護学校などJR草津線沿線にあることから、障害者の利用促進につながる可能性が高いと考える。</p> <p>○滋賀県水泳連盟 3市とも、大変素晴らしい提案をなされていますが、総合的に判断させていただきますと、草津市の提案が優位であると判断いたします。 つきましては、草津市にてプール建設を希望するものであります。 特に飛込みプールの設置に付いては、現在の競技者人口は少ない所ではありますが、現に競技者として練習に励んでいる者・競技者を目指している者がいる以上設置を強く希望するものであり、施設が出来ることにより、さらに普及競技力向上につながるものと確信しております。また近畿圏においては、初の年間を通じて使用の出来る施設として、注目の施設になることは間違いありません。立命館大学においても飛込み施設が出来れば、飛込み競技の振興に協力を進めたいとの提案を受けております。 ただ、国体を含め全国規模の大会を誘致するにあたりましては、公園内における建設位置の再考をお願いいたします。出来る限り新設する体育館に近づけての建設をお願いいたします。体育館・プール共に運営・インシヤルコストにメリットが出るものと考えます。</p> <p>○滋賀県高等学校体育連盟 本連盟としては、「すべての水泳競技（競泳、飛込、水球）が県内で開催できること」が優先すべき評価ポイントであることから、「草津市」の選定が妥当と考える。</p> <p>○滋賀県中学校体育連盟 (1) 飛び込みプールの整備 (2) 具体的な整備箇所 (3) 水泳競技の普及状況 (4) 施設整備および運営に要する経費についての考え方 (5) 施設運営についての考え方 全ての項目で上位である草津市での整備が妥当であるとする。</p> <p>○同志社大学スポーツ健康科学部 横山 勝彦 教授 平成 36 年の国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けたプール整備にあたっては、県民・市民のスポーツ環境を将来的にわたって担保すると共に競技の振興も図るため、現状施設の縮小ではなく、その維持もしくは拡大が求められる。 そうした観点から、(2) 具体的な整備予定箇所から判断される立地条件に優位性を有すると共に、(1) 飛込プールの整備に意向ありと回答した草津市を 1 位と評価する。</p> <p>○法政大学スポーツ健康学部 吉田 政幸 准教授 総合評価は、以下の 3 点に集約されます。 第一に、飛込プールに関しては、草津市のみが整備の意向を示しました。競技の市場性を優先し、収益性の低い飛び込み競技を他府県で開催するという考え方もありますが、国体施設のような公共施設はマイナー競技の振興も担っています。さらに、滋賀県の場合、彦根総合運動場の水泳競技施設（飛込プールを含む）の取り壊しに伴い、代替施設を整備しなければならない状況にあります。先県とは異なる滋賀県独自の要請に応えるとともに、公共施設によるマイナー競技の振興に配慮した形で施設を整備する必要があります。 第二に、国体規模のプールの整備予定箇所は人口密集地であることが望ましいです。水泳は生涯スポーツとして人気の高い目であり、多くの人々にとって共通の関心になっています。このような人気種目の全国大会を誘致する場合、その施設はできるだけ多くの市民が利用できる公共性を備えている必要があり、そのためには人口規模の大きな都市に整備することが望ましいです。さらに、地元住民が日常的に利用できる施設とするためには、自動車によるアクセスに加え、鉄道の最寄り駅から徒歩圏内にあることも重要な条件です。 第三に、3市の回答によると、施設運営は (1) スポーツ振興を意図した水泳に関する事業（教室や大会の開催）と (2) 地域振興を意図した観光業や教育に関する事業（合宿誘致、大学スポーツとの連携）の二種類に分けられるようです。水泳に関する事業では、国体後も全国規模の大会を継続的に誘致して地元の知名度を上げるとともに、民間のノウハウを活用して住民の日常的な施設利用を楽しく快適なものにしなければなりません。また、地域振興を意図した事業では、地元文化、歴史、地域性を住民が再確認できるような形で地元の観光業や教育機関と連携することにより、開催地らしい水泳競技の普及が図られていくものと考えられます。 以上を総合的に評価した結果、特に競技施設、建設予定地、施設運営の点で、草津市がプール整備の候補地として最も適していると判断しました。</p>
-------------	--

滋 ス 第 4 5 5 号
平成 29 年(2017 年) 7 月 25 日

(市町名) 長 様

滋賀県知事 三 日 月 大 造

プール整備にかかる意向について (照会)

平素は、本県のスポーツ推進に格別の御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

県では、平成 36 年に開催する第 79 回国民体育大会・第 24 回全国障害者スポーツ大会の主会場として(仮称)彦根総合運動公園を整備することに伴い、既存の彦根総合運動場スイミングセンターを廃止することとしており、国体水泳競技会場とすることができる代替施設の整備について検討を進めてきました。昨年度、各市町に対し、プール整備を検討する意向について照会を行いました。が、「県の基本的な考え方」に沿って、検討すると回答された市町はなかったところです。

このため、市町や競技団体の意向を踏まえつつ、改めて「整備に向けた基本的な考え方」を整理し、市町との連携によりプール整備を進めていくこととしました。

つきましては、貴市町の御意向について、別紙様式により平成 29 年 8 月 31 日(木)までに御回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。

プール整備にかかる意向について

1. 「整備に向けた基本的な考え方」について

整備に向けた基本的な考え方について、改めて以下のとおり整理し、市町との連携により進めていくこととしました。

平成 36 年に予定されている国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向け、プールを整備する市町を県が支援することとし、県が施設整備および運営に要する経費の一部を補助することをもって共同とする。

① 50mプール・25mプールについて

- ・ 国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の円滑な開催はもとより、将来に向け年間を通じ利用者である県民・市町の住民が日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境を確保する観点から、50m屋内温水プールおよび25m屋内温水プールを整備することとする。
- ・ 県立プールの機能を担う施設となることを踏まえ、県は、施設整備および運営に要する経費（国庫補助金、その他助成金等収入相当分を除く。）について、2/3以内の補助を行う。

② 飛込プールについて

- ・ 飛込プールについては、25mプールとの兼用も含め、効率性の観点から、50mプールおよび25mプールと一体的に整備したいと考えている。
- ・ なお、飛込プールを整備する場合は、これに係る施設整備および運営に要する経費（国庫補助金、その他助成金等収入相当分を除く。）を県が全額補助する。

2. 市町への意向照会について

上記の「整備に向けた基本的な考え方」に沿った50mプールおよび25mプールの整備の意向の有無について伺います。あわせて、意向有りとされた場合には、支援する市町の決定にあたっての判断材料とするため、下記の項目についても記載をお願いします。

(項目)

① 飛込プールについて

- ・ 飛込プールの整備の意向

② 整備予定箇所について

- ・ 交通アクセスの状況、周辺人口の状況、競合施設の状況

③ 水泳競技（競泳・飛込・水球・シンクロ）の普及状況について

- ・ 競技人口、水泳部の設置状況など

④ 施設整備および運営に要する経費について

- ・ 国庫補助金やその他助成金等収入などの財源獲得に向けた取組
- ・ コスト削減に向けた取組

⑤ 施設運営について

- ・ 利用者確保に向けた取組

3. 支援市町の決定について

- ・各市町の回答内容について、総合的に判断した上で、支援する市町を決定します。なお、判断にあたっては、競技団体や学識経験者等から意見を聴取します。
- ・飛込プールの整備の有無については、支援することとした市町の回答に基づきます。

プール整備にかかる意向について（回答）

市町名	
所属名	
担当者名	
連絡先	
e-mail	

1. 貴市町における、「整備に向けた基本的な考え方」に沿った50mプールおよび25mプールの整備の意向の有無について、下記の「有」または「無」を○で囲んでください。

意向の有無	有	無
-------	---	---

※国体リハーサル大会（平成35年予定）までの供用開始が前提となります。

（意向「有」の場合は、2以下にも記入をお願いします。）

2. 飛込プールの整備の意向の有無について、下記の「有」または「無」を○で囲んでください。

意向の有無	有	無
-------	---	---

※飛込プールについては、25mプールとの兼用も含め、効率性の観点から、50mプールおよび25mプールと一体的に整備したいと考えています。

3. 具体的な整備予定箇所について御記入ください。

(整備予定箇所)
(交通アクセスの状況)
(周辺人口の状況) ※概ね半径5km以内
(競合施設の状況) ※概ね半径5km以内

4. 水泳競技（競泳・飛込・水球・シンクロ）の普及状況について御記入ください。

(競技人口、水泳部の設置状況など)

5. 施設整備および運営に要する経費についての考え方を御記入ください。

(国庫補助金やその他助成金等収入などの財源獲得に向けた取組)

(コスト削減に向けた取組)

6. 施設運営についての考え方を御記入ください。

(利用者確保に向けた取組)

7. 意見・提案事項等があれば御記入ください。

配点基準

項 目	基礎点	配 点		
		1位 (①については有 の場合)	2位 (①については無 の場合)	3位
①飛込プールの整備意向	5	基礎点 × 3点 (15点)	基礎点 × 0点 (0点)	—
②整備予定箇所	5	基礎点 × 3点	基礎点 × 2点	基礎点 × 1点
③水泳競技の普及状況	3			
④施設整備および運営に要する経費	4			
⑤施設運営	3			

※項目内で順位をつけがたい場合は、同順位とする場合もある。